

直挿しコンテナ苗の育苗中の成長

～直挿しでは従来方法に比べ成長が良く、より早く山行き苗を育成できます～

1 はじめに

当センターでは、スギ挿し木コンテナ苗の効率的な育成に向け、施設で発根させた苗木をコンテナに移植する従来方法に代わり、穂木をコンテナに直接挿し付ける「直挿し」試験に取り組んできました。これまで少花粉品種4系統で良好な発根が確認された¹⁾が、育苗期間中の成長を調査した事例はない。

そこで、今回、直挿し苗および移植苗の苗高等を調査した。

2 方法

2019年2月に採穂し、同年5月に、用土を充填したコンテナ(JFA300)に穂木を挿し付けたものを直挿し苗とした。一方、2019年5月に施設の挿し床に穂木を挿し付け、挿し床で十分な発根があった苗木(以下、発根苗)を、2020年4月にJFA300へ移植したものを移植苗とした。直挿し苗、移植苗の育苗経過を図1に示す。

供試系統、穂木の調整、挿し付け方法、用土組成、挿し付け後の管理方法は既報¹⁾と同様である。また、直挿し苗、移植苗ともに、2020年4月以降は週2-3回程度の散水のほか、化成複合肥料の施用を適宜行った。供試対象は、直挿し苗では、JFA300に挿し付けた穂木94本とし、移植苗では、JFA300に移植した発根苗96本とした。

調査は、2020年11月に実施し、苗高、前年枝までの高さ(以下、前年苗高)を計測した。採穂後1生育期を前年、2生育期を当年と定義し、苗高成長量は当年苗高から前年苗高を差し引いた値とした。

【引用文献】

¹⁾岩手県林業技術センター研究報告第29号(2021)p1-7

3 結果と考察

前年苗高は、直挿し苗と移植苗で有意差がなかった($p>0.05$)が、当年苗高および苗高成長量は、移植苗に比べ、直挿し苗で有意に高かった($p<0.01$) (図2)。直挿し苗では、移植苗のように、移植時の根切りによる損失が生じないことが良好な成長につながったと推察された。

また、岩手県のスギコンテナ苗の山行き苗規格である苗高30cm以上を満たすものを得苗とすると、採穂後2生育期秋時点では、供試本数に対して、直挿し苗では73%、移植苗では14%が得苗可能であった。

4 成果と今後の進め方

今回の結果から、直挿しでは、発根後も良好な成長を示し、従来方法よりも早く山行き苗を育成できる技術であると示唆された。今後は、山行き苗規格に達するまでの期間をより短縮できるように、施肥方法の検討を行う予定である。

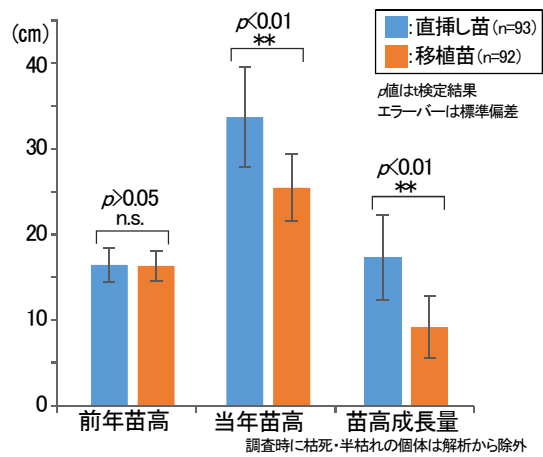


図2 直挿し苗と移植苗の前年苗高、当年苗高、苗高成長量の平均値

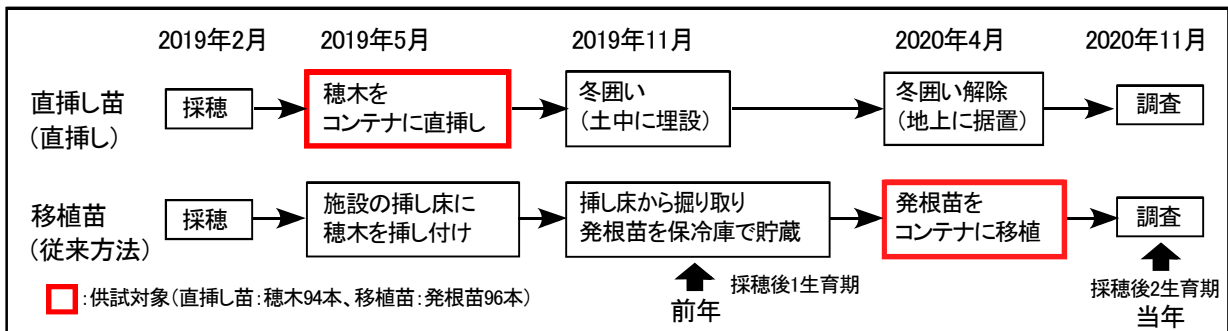


図1 直挿し苗および移植苗の育苗経過

(担当者 研究部 主査専門研究員 丹羽花恵)

連絡先	〒028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11	TEL 019-697-1536
	岩手県林業技術センター	FAX 019-697-1410
	ホームページアドレス : http://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/	